

独自の栽培技術による単収・品質の向上と多品目栽培体系の実践

経営体の概要

事業実施前

基幹作物：(露地)ドラゴンフルーツ70a
(露地)さとうきび50a

経営面積：120a



事業実施後

基幹作物(施設)ゴーヤー10a、マンゴー 12.5a
(露地)かぼちゃ25a、さとうきび145a

経営面積：192.5a

取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体は、平成元年に親から農業経営を受け継ぎ、事業を契機に平成17年に専業農家に転身し、現在はゴーヤーの施設栽培を中心に、かぼちゃ、マンゴーなど多品目の作付体系を実践している。

独自の土づくりや活性剤を使用し、単収や品質の向上を確保しており、さとうきびの競作会(多量生産の部)やゴーヤーの品評会において、高い評価を得ている。また、地域の若手農業者に技術を伝えるなど、担い手の育成にも取り組んでいる。

営農改善のポイント

①作物の変化

事業前は、兼業農家であったが、事業により農業用水を安定的に確保できることから専業農家に転身、施設栽培を中心とする経営に転換し規模拡大を行っている。

現在は、施設のゴーヤー、マンゴー栽培を中心に、露地かぼちゃ、さとうきびの栽培を行っている。

②栽培技術の確立・向上

さとうきびは、土づくりに重点を置き、有機堆肥やバカス(さとうきび搾汁後の残渣)の投入と深耕を行っている。ゴーヤーは、薬草から抽出した活性剤を独自に開発し、表面に散布することで、鮮度の保持を図っている。

また、かぼちゃは、防風対策と土づくりを兼ねて、畝の脇に緑肥(ソルゴー)の植付を行っている。

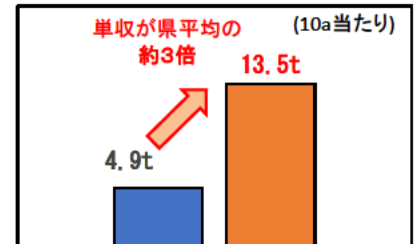
③単収・品質の向上

作物への適切な散水と独自の土づくりにより、単収や品質が向上し、ゴーヤーの品評会では、農林水産大臣賞を受賞。また、さとうきび(春植)の10a当たり収量は、県平均の約3倍(約14t)を実現している。



ゴーヤーの栽培状況

さとうきびの単収(H29-30年産)



■県平均 ■本経営体



かぼちゃの栽培状況(防風対策)

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業

関係市町：宮古島市

受益面積：9,156ha

事業期間：S62～H12年度、H21年度～

事業目的：畑地かんがい、用水改良

主要工事：地下ダム2箇所

副貯水池1箇所

揚水機場1箇所

用水路 55km

位置図(沖縄県)



<局問い合わせ先>

沖縄総合事務局
農村振興課振興課
企画指導官(経済資源)
電話：098-866-1652

(令和2年調査時点)